

	情報発信	コミュニティ形成・連結	プロジェクト創出	プロジェクトのショーケース
アウトプット(事業量)	目標・事業計画(年間) 情報発信 <b>700件</b> [700件]	① イノベーション人材のコミュニティ形成イベント <b>72回</b> [72回] ② 海外ワークショップ(学生、起業家) 1回 [1回] イベント参加者数 <b>6,500人以上</b> [6,500人]	① ニーズ顕在化教育プログラム 2回 [2回] ② プロジェクト創出プログラム 8回 [8回] (うちオープンイノベーション関連) 4回 [4回] ③ <b>ピッチイベント</b> <b>50回</b> [45回] ④ OIHシードアクセラレーションプログラム(OSAP) 20社 [20社]	● 国際イノベーション会議開催 プロジェクトのプロモーション機会創出 参加者: <b>700人以上</b> [700人以上] 国際会議 1回 [1]
	実績(年間) ※2/28時点 発信件数計 <b>816件</b> [933]件 (内訳) ・イベント告知 日 237[346]本、英 0[8]本 ・イベントレポート 日 9[ 2]本、英 0[2]本 ・起業家紹介等 日 13[ 4]本、英 0[0]本 ・ニュース 日 52[ 42]本、英 0[6]本 ・HPコンテンツ 日 89[ 36]本、英 25[0]本 ・FB投稿 日 256[302]本、英 29[78]本 ・メルマガ 47[41]本、DM58[66]本、 ・プレスリリース 1[6]件 【別途 OSAP】 ・イベントレポート5本、起業家紹介20社、 ・メンター紹介 74社、FB投稿 54本	① 学生、VC、起業家、支援機関、企業等を対象としたイノベーション人材コミュニティ形成のためのセミナー <b>189回</b> [220回] <b>テックミーティング</b> <b>4回</b> [ 2回] ② 海外WS(シンガポール) 1回 [2回] 18名[35名] 連携海外WS(戦略的起業家育成講座@サンディエゴ) 7名[-] イベント参加者数 <b>12,303人</b> [14,917] (別途、拠点来場者 <b>1,772人</b> [3,644]) 合計 <b>14,075人</b> [17,385]	① 5本 [6] ② 15回 [13] ・アイデアソン・ハッカソン 8回 [9回] うち、社会課題ハッカソン 1本 1回 [-] ・オープンイノベーション 7回 [4回] ③ <b>49回</b> [45回] ④ OIHシードアクセラレーションプログラム 20社	●国際イノベーション会議「Hack Osaka 2019」を平成31年3月13日(水)に開催 ●テーマ:「イノベーションエコシステムの構築に向けて -Paradigm Shift toward Hack Osaka Movement-」 ●キーノート: Oscar Kneppers氏(Rockstart創業者)、 ●グローバルチャレンジアクトーク(原ゆかり氏)、パネルディスカッション、 インターナショナルピッチコンテスト(ヘルスケア、トラベルテック分野等)など ●スタートアップショーケース(展示ブース)、学生ピッチ、ハードウェアアップ、投資家面談等を同時開催 ●参加者数 <b>757人</b> ※暫定値 [684人]
アウトカム(成果)	目標・達成水準(年間) 定量的指標 (開設(H25)~30年度累計) ① HPのユーザー数 326,000 ② FBの「いいね」数 8,300 ③ メルマガ登録者数 22,000 ④ <b>展示会出展 1回</b> 定性的指標 ●メディア掲載数及びメディアによる評価 ●OIH会員(プレイヤー・パートナー)リストの整備と共有 ●成功起業家のライブラリーの充実 起業家をヒアリング・取材の上、ライブラリーとして掲載 15社	イノベーション創出を担う人材を輩出する多様なコミュニティの活動が活性化している 定量的指標 (開設(H25)~30年度累計) ① <b>会員制度(OIHメンバーズ)登録者数 1,000</b> [H25~29計 917] ② OIH会員が持つ情報発信対象者数 33,000 [H25~29計 104,885] ③ OIHを拠点に活動するコミュニティ数 10[13] ④ 外部団体との連携活動 10[13] 定性的指標 ●コミュニティの形成が多数促進され、多様な人材が参画している ●グローバルネットワークが形成されている ●戦略的データベースの作成 1. ピッチ登壇者候補: 150名(うち、英語可 30名) 2. ITエンジニア・システム開発者: 50名 3. ベンチャーキャピタル: 30社/大企業: 50社 (合計 280件)	イノベーション創出に資するプロジェクトの具体化が進行している 定量的指標 ① <b>プロジェクト創出・推進支援件数 50件以上/年(H28~H30累計 150件以上)</b> (プロジェクトが投資を受けた額(調査回答分)25億円) ② ニーズ顕在化教育 学生 50名、社会人 50名以上 (プロジェクト定義) 支援の結果 ・守秘義務、共同研究等の契約関係に入ったもの ・ソフトウェア等における試作版・製品の公開 ・資金調達に向けた具体的アクション ・スーパープロデューサーが認定したもの	開催する国際会議が国内外から注目度が高いプロジェクト発表の場となる。 定量的指標 ① 海外関係からの参加者数 100人程度 [100] ② メディアでの掲載数 10件以上 [10] 定性的指標 ●参加者やメディアによる評価内容 ●YouTube、Facebookの情報発信効果
	目標設定の考え方 平成27年度の実績を勘案して設定している	平成27年度の実績を勘案して設定している	25年~27年度の3ケ年で、プロジェクト創出支援 100件を目標。27年度の目標 50件を28年~30年度に継続	時宜にあったテーマ設定や効果的な情報発信を行うことで、少なくとも昨年度並みの成果を設定している
	実績(3月末現在) 定量的指標 (H28~30年度累計) ① 383,730 [ H25~29計 321,750 ] ② 6,851 [ " 6,489 ] ③ 17,630 [ " 16,297 ] ④ <b>3回(Tech In Asia、未来 2019 東京・大阪)</b> 定性的指標 ●WEBメディア掲載 91回 [44] ●新聞・雑誌掲載 55回 [48] ●テレビ放映 23回 [10] ●成功起業家のライブラリーの充実起業家をヒアリング・取材の上、ライブラリーとして掲載 13社	定量的指標 ① <b>1,010人(プレイヤー 721人、パートナー 289人)</b> [917人] ② 119,202人 [104,885人] ③ 14団体 [13団体] ④ 18事業 [13事業] 定性的指標 関係先とネットワーク構築 ●タイ国家イノベーション庁(NIA)やシンガポール国立大学など <b>海外ネットワークも順調に拡大</b> 。 ●OIHインテルプレナーアルムナイ事務局や、若手サミット関西といった新しいコミュニティとの連携が促進されている。 ●戦略的データベースの作成 ① ピッチ登壇者候補: 322名(うち、英語可 50名) ② ITエンジニア・システム開発者: 65名 ③ ベンチャーキャピタル: 30社/大企業: 117社 合計 534件	定量的指標 ビジネスプランコンテストや、プログラムでの成果発表等を通じて形成されたチームの状況の把握に努めている。 ① <b>50件[55件]</b> (OSAPを含む) [H25~30累計 276件] (プロジェクトが獲得した投資資金 約 29億円)[H28~30累計 48.3億円] ② 学生 72名、社会人 56名 [学生 50名、社会人 56名] 内訳 学生: GAO13名、GEIOT15名、起業家アカデミー44名 社会人は、インテルプレナー17名、GAO21名 GEIOT5名、戦略的起業家 ES13名	定量的指標 ① 外国人参加者数 約 108人、 <b>比率 約 14.3%</b> [86/684で12.5%] ② <b>11件</b> [13件] ※集計中 定性的指標 ・Youtube視聴者数(当日) : ---件 [142] ・Facebook投稿(当日) : 12件 [37] ・Facebook いいね(当日) : 169件 [117]他 ・参加者アンケート(N=---): 「満足」、「やや満足」計 ---% [73%] ※集計中

評価: S 目標・達成水準を上回っており、特筆すべき進捗状況にある  
 B 目標・達成水準の到達に向けて、おおむね進捗している

A 目標・達成水準に到達しており、順調に進捗している  
 C 目標・達成水準の到達のために、重大な改善事項がある

			情報発信	コミュニティ形成・連結	プロジェクト創出	プロジェクトのショーケース
自己評価	段階別評価	アウトプット	B	S	A	S
	アウトカム		A	A	A	A
	自己評価各事項別コメント		<p>●情報発信数は年間の発信目標数を上回っている。</p> <p>●イベントレポートや英語での発信の回数があり伸びなかった。</p> <p>●OIHに関係がある先輩起業家の事例・インタビューのOIHのHPへの掲載(起業家ライブラリ)やOIHのパンフレットの作成(日本語・英語の両方)など、大阪・関西での成功事例を発信は進んだ。</p> <p>●「TechInAsiaTOKYO」、「未来2019」など東京圏でのイベントに大阪のベンチャーと出展した。アジアをはじめ世界各国のスタートアップに対してOIHのPR及びプレイヤーへの勧誘を行ったほか、大企業や他の支援機関との連携のきっかけをつかんだ。</p> <p>●アウトカムも、目標達成に向け堅調である。OIH会員企業の新聞・雑誌等への掲載が多数あった。メディアへの掲載は、スタートアップにとって大きな推進力となるため、引き続きメディアへの働きかけなどサポートを続けたい。また、大阪市の取組みについての掲載もあった。</p> <p>●その他、Forbes JapanにおいてOIHが「日本国内で注目すべきイノベーションハブ5選」として掲載された。</p>	<p>●イベント数、参加者数とも、目標を大きく上回って推移。</p> <p>●海外の政府機関や大学、ジェトロなどと連携し、海外セミナーなども実施。</p> <p>●昨年に引き続き、ジェトロ・イノベーション・プログラム(JIP)深センを開催。参加企業にOIHでの事前研修・メンタリング、ハイテクフェアへの出展支援、現地でのピッチ機会などを提供し、中国へのビジネス展開の機会を創出。現在継続中の商談案件もある。</p> <p>●若手起業家や学生などを対象に実施してきた海外ワークショップを初めてシンガポールで開催。終了後も、現地の大学と連携したスタートアップ支援プロジェクトを進めている。</p> <p>●経産省のイントルプレナー育成事業「始動」参加者と連携した「イントルプレナーミートアップ」プログラムを実施。大企業の新規事業担当者をOIHに誘引している。</p> <p>【関係を構築した国内コミュニティの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●アスリートユースサミット(体育会ピッチ)</li> <li>●平成会(若手経営者)</li> <li>●若手サミット関西事務局</li> </ul> <p>【関係を構築した海外機関等の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ドイツ連邦経済エネルギー省</li> <li>●シンガポール国立大学(NUS Enterprise)</li> <li>●シドニースタートアップハブ</li> <li>●タイ国家イノベーション庁(NIA)</li> <li>●インベスト香港</li> <li>●台湾貿易センター</li> </ul>	<p>●イベント数は目標を上回っている。</p> <p>●昨年に引き続きオランダ発祥の国際ピッチコンテストの日本予選を実施。今年には出場者に対して英語でのピッチトレーニングも手厚く実施し、登壇者のレベルアップを図った。イベント運営についても、エンターテインメント性や登壇者と観客の一体感の醸成を図った。</p> <p>●総務省・NICT(情報通信研究機構)主催の「起業家万博」・「起業家甲子園」の近畿地区予選なども開催。</p> <p>●起業家人材を増やすため、学生等を対象とした教育事業(ニーズ顕在化プログラム)を実施した。外部団体との連携によって、参加者数や内容も充実したプログラムとなりプロジェクト創出にもつながった。</p> <p>●大学のシーズを活用したプロジェクトの創出・推進支援をめざし、複数の大学等とテックミーティングを開催した。</p> <p>●OSAPでは、第5期、第6期各4ヶ月ずつ計20社のベンチャーに対して大企業やベンチャーキャピタルのメンタリング等を実施し、資金獲得や事業プランの改善等につなげることで、プロジェクトを推進した。第1期からの累計で投資・融資合わせて約42億円の資金獲得に成功しており、大企業等との連携事例も多数生まれている。</p> <p>●以上の結果、創出・推進できたプロジェクトは年間目標を達成し、50件となっている。</p>	<p>●国内及び海外で活躍する起業家による講演や、各国で起業家支援に取り組むアクセラレーターらによるパネルディスカッションを通じて、大阪がイノベーションが次々と生み出される都市となるための議論を行った。</p> <p>●国際会議の翌日には、Hack Award(ピッチコンテスト)登壇企業と、関西の大企業等との商談会(経済産業省・ジェトロ等と連携)および、招へいた海外アクセラレーター・投資家と国内スタートアップとの商談会(RBC)を同時進行で開催し、100件以上のマッチングを行った。国内外から多様なプレイヤーが集うHack Osakaの機会を最大限に活用し、ショーケースのみならず「実際にビジネスが創出される場」としても機能させている。</p> <p>●サブ会場では、OIHで支援した起業家による出展ブースやVCとのマッチングのほか、関西の各大学からの推薦をうけた学生が出場するピッチコンテスト「KANSAI STUDENTS PITCH Grand Prix 2019」の開催、米国ピッツバーグで開催される Monozukuri Hardware Cup の日本予選の開催など、国際会議と並行して様々なプログラムを提供した。</p> <p>●参加者数は過去最高を記録、外国人比率も14.3%と前回実績を上回った。</p> <p>●学生ボランティアの起用、留学生等のコミュニティへの組織的な呼びかけ、Youtubeでの配信など、若者や当該イベントになじみのない層への普及・啓発にもつながっている。</p>
	来年度の方針		<p>・連携する国内外のコミュニティや(WEB)メディア、関係機関との連携、英語による発信など、発信力の強化に引き続き取り組む。</p> <p>・在関西メディアとの連携を強化し、OIHの取組みやOIH会員の事業についてメディアに掲載されることをめざしていく。</p> <p>・大阪市の他のイノベーション関連施策とも連携し、大阪で魅力ある施策が展開されていることを発信することで、「イノベーション都市・大阪」のイメージづくりに取り組む。</p>	<p>・引き続き様々な団体と幅広い分野・テーマのイベントを共催することで、多様な人材をOIHに呼び込む。</p> <p>・各種コミュニティや外部団体との連携を強化し、プロジェクト創出等につなげていく。特に、関西は大企業の集積に強みがあるため、OIHのパートナーとしての参画拡大をめざしていく。</p> <p>・海外の連携先とともに起業家の相互交流や成長支援をめざした取り組みを進める。</p>	<p>・起業家やオープンイノベーション志向の企業等とのネットワークを拡大する。また、国内外のピッチイベント等に「つながる機会」を増やし、これらへの参加を促進することで、つながりの質、量を高めていく。</p> <p>・産学連携の取組みにより、大学のシーズを活用したベンチャーの輩出をめざす。</p> <p>・大企業の一層の参画を促進し、オープンイノベーションによるイノベーションの創出に取り組む。また、こうした取り組みを通して大阪・関西の魅力発信を図る。</p> <p>・これまで培ってきたグローバルネットワークを活かして、海外展開事例の創出をめざす。</p>	<p>・大阪市やOIHが培った海外ネットワークを活用し、優秀なスタートアップの参画に引き続き取り組む。</p> <p>・外国人参加者数を増やしていくために、関西エリアの留学生ネットワーク等とともに連携するとともに、Hack Awardの質も高めて国内外からの参加者を増やす。</p>
評議会評価	段階別評価					
	事業総括コメント					